

# 一步踏み出す あなたに

⑥

まず、私たちは信じられないほど技術革新のスピードが速い時代を生きているということを知っておきたい。これは2つのことを示唆する。

1つは医療技術の進展などで寿命が延びるとのこと。今の20代は90歳、100歳、あるいはそれ以上人生を過ごす。その結果、70代や80代になっても自分のスタイルで動いているのが普通という時代になるだろう。

2つ目は人工知能(AI)やロボット技術の急速な進展により、私たちが駆使したり、習得したりすべきスキルや技術が刻々と変化していくという点だ。人生のどの段階でも学習を続ける

## ロンドン・ビジネススクール教授 リンダ・グラットン氏

# 人生どの段階でも学び



Lynda Gratton 人材論、組織論の第一人者。世界で最も影響力のある「Thinkers 50」に選ばれている。ベストセラーとなった著書「ライフ・シフト」では人生100年時代の生き方を提唱。安倍政権の有識者会議にも参加した。64歳。

うな社会では企業側も日本では中心の新卒一括採用ではなく、多様な世代に門戸を広げた採用が必要になり、労働市場もより柔軟になるだろう。

もし私がいま20代なら、機械に取って代わられない人間特有の能力を伸ばすことを考える。それは好奇心や共感、さらには社会性のスキルだ。日本のことや世界のこともっと知りたいという強い興味と、同時に他の人々やグループに共感し、それを創造活動に生かすことは機械では置き換えにくい重要な能力だ。

これに加えて、自らが所属する地域や組織を支えるために自分がどのような役割を担えるのか。それを20代の頃から考え続けることが重要で、それには社会性のスキルが不可欠になる。若いころを振り返ると、私にとって仕事を選ぶ基準は自分が何を学ぶことができるのか、自分の好奇心を盛り上げ、興味をそそる仕事ができるのかどうかだ。核心だった。大学で心理学の修士号を取ったので、その経験を生かそうと英アソシエイト・エデュケーション・イッシュュ・エアウェイズに専属心理学者として就職し、ロンドン・中島裕介

姿勢が重要で、常に自分のスキルを磨き続ける習慣を人生の前半のうち身につける必要がある。

私は日本の5〜6社の企業と仕事をしているが、日副業的に他の仕事に挑戦本の特徴だった終身雇用は徐々になくなりつつあると

インターネットを通じて単発の仕事を受発注するギグエコノミーが主流になるとまではいえないが、一人の働き手が会社に勤めながら副業や社会から必要とされる自身のスキルやブランドを築くことにつながり、より望ましい。そのよ

いま20代なら…好奇心・共感・社会性、人間特有の能力伸ばす

た。他の企業も経て学究の世界に入ったが、実務で身につけた経験や知識は私の研究や学者としてのキャリアにつながる。

思う。終身雇用での企業と社員の関係は親子の関係に近いが、今後は企業とスキルを持つ人材とが契約で

結びられる大人同士の関係が増えるだろう。

ロンドン・中島裕介

ロンドン・中島裕介

ロンドン・中島裕介